

住民たち、特に女性が、自分はそんなに貧しくも無力でもないのだと気づき始めたのです。食べ物とお金を手に入れ、家をきれいにするために、この両手を使ってできることがあると知った住民は、家庭菜園や共同菜園を始めました。ケープタウンのありとあらゆる町に広がっています。参加する女性は毎日増えています。人々は、多くの問題を抱えて、私たちのところにやってきますが、住民同士が出会うと、ほかの人も同じ問題を抱えていることがわかり、力を合わせて、自分たちの問題を解決しようとします。アイデアと知識を共有するのです。



6



7

6 インフォーマル居住地に隣接する公有地で、食卓によく登場する野菜を栽培する農業者。ケープタウン。

7 インフォーマル居住地の菜園栽培者に苗を渡すメイベル・ボコロ。ニヤンガ・ビーブルズ・ガーデン・センター。ケープタウン。

デジタル・ドラム



シャラド・サプラ

ユニセフ、ウガンダ代表・元コミュニケーション部局長

Sharad Sapra

インタビュー：シンシア・E・スミス

——ユニセフのコミュニケーション部局長として、2007年に部局内にイノベーション・チームを作られたとき、目的は、世界の子どもの支援というユニセフの使命に貢献できるよう、新しいテクノロジーを活用することだったと伺いました。どのようなきっかけで、人間開発へのこの新しいアプローチを模索することにされたのですか。

シャラド・サプラ（以下、SS） アルバート・アインシュタインは、「問題が生じたときと同じ発想で、問題を解決することはできない」。この「ぐく当然の考え方」をヒントに、開発の課題に別の視点からアプローチすることを考えたのです。

1 メーカーフェア・アフリカで、デジタル・ドラムの最初の試作品を使う若者たち。ケニア、ナイロビ。2010年8月。

—— イノベーション・チームのメンバーはどのような人たちですか。従来大きな官僚的組織と見られていたユニセフをどうやって動かしたのですか。取り組みはどのようにユニセフ全体に広がりましたか。「世界中の、そして研究者や民間セクター、市民社会といったさまざまな分野の専門家」^[1]と協力することが、長続きする真のソリューションにつながるはなぜですか。

SS イノベーション・チームのメンバーは従来型の開発の枠組みにそれほどかつちりと組み込まれていない人たちです。大半が若く、現状に挑戦したいと考えている人です。外からだとユニセフは大きな官僚的組織に見えますが、「今あるもの」に取り組んで、「将来ありえるもの」に変えたい思う人間には、充分、活動の余地があります。私はもともと医師ですが、ユニセフには過去25年間、さまざまな領域と役割で仕事をし、新しいアイデアを試させてもらいました。たとえば、携帯のベーシックな機能である電話とSMSメッセージの利用を促進するプロジェクトは、実施状況をモニターして改善するものでしたが、シンプルなアイデアとして始まったものが、今では18カ国以上に広がっています。

開発分野で今日直面している多くの課題に対するソリューションは、もはやひとつの領域にとどまりません。たとえば、必要なとき、必要な場所でワクチンを手に入れられるようになることは、必ずしも医療の問題ではなく、ロジスティックの問題です。規模を拡大し、もっとも貧しい人々、もっとも辺境な地域にいる人々、深刻な格差のために国のサービスにアクセスできない人々たちがいる「最後の1マイル」に届けることが重要なのです。こうした不平等は、文化的、経済的、地理的、民族的なものかもしれません。互いに

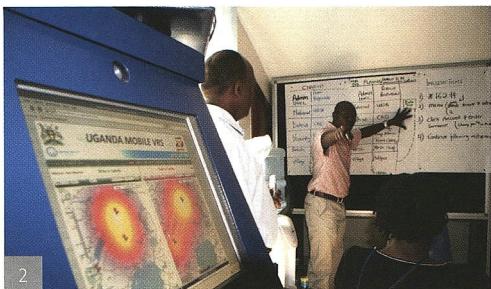
[1] "UNICEF wins award for helping malnourished children," in the *Hindustan Times* (January 10, 2009), <http://www.hindustantimes.com/UNICEF-wins-award-for-helping-malnourished-children/Article1-365084.aspx> (accessed 1/20/2011).

結びつき、依存しあっている今日の世界では、独立可能なセクターはありません。学術界、市民社会、民間、そして当事者自身が集まって、アイデアや経験やツールを共有する交流こそが、意義のある、持続的なソリューションにつながるのです。

――プロジェクトは、「ラピッドSMS」や「チャイルドカウント」など、医療関係で数々の画期的なイノベーションにつながりました。「ラピッドSMS」について教えてください。
SS もつとも困窮している人々のために、どのように医療を改善するのですか。

ラピッドSMSは、ひとつのフレームワークであり、ソフトウェアのプログラマーが携帯電話用にSMSを基盤にしたアプリケーションをばやく作れるようになります。毎回、新しいツールをゼロから開発するのではなく、既存のシステムのパートを再利用することでの開発者が時間とコストを節約できるようにしました。ラピッドSMSは、オープンソースです。活動の対象となる人々や国家がソリューションを全面的に所有し、維持管理し、ユニセフはそれを支援する、という形です。

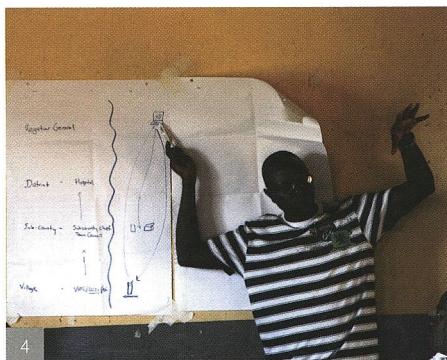
ラピッドSMSは、当初ユニセフが開発し、エチオピアの栄養不良と闘うために、そのまま食べられる栄養補助食の在庫管理用に展開したものでした。今や世界中で幅広い団体や会社によって利用されおり、うれしく思っています。〈ミレニアムビレッジ〉の「チャイルドカウント」プロジェクトもそのひとつです。チャイルドカウントは、コロンビア大学地球研究所のプログラムで、ケニア、ガーナ、ウガンダで利用されている、コミュニティの症例管理アプリケーションです。コミュニティの医療従事者が、出生を登録し、



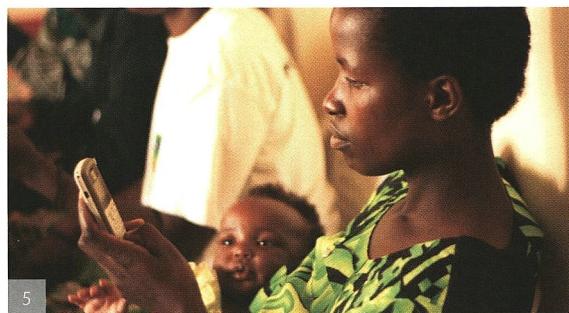
2



3



4



5

- 2 ユニセフのスタッフに、携帯電話を通じた出生登録について説明するオーギュスティン・ワサゴ。手前はデジタル・ドアウェイ。
- 3 コミュニティワーカーに、携帯電話を基盤にした出生登録について説明する、ユニセフ・ウガンダ児童保護専門家オーギュスティン・ワサゴ。
- 4 携帯電話を通じた出生登録の仕方をコミュニティワーカーに説明するエンジニア、アンドリュー・カソラ。
- 5 ラピッドSMSを使って妊娠中の危険の兆候を報告する研修を受けるルワンダのコミュニティ医療従事者。